



長岡の火焰型土器1点

英ストーンヘンジで展示

30日から

長岡市は26日、市内の岩野原遺跡で出土した火焰型土器1点が、英南部の世界文化遺産ストーンヘンジの観光案内施設で、30日から展示されると発表した。日本の縄文文化を紹介する特別展に合わせ、市が主催者に貸し出す。

展示するのは縄文中期の火焰型土器で高さ約30センチ。上部の突起が繊細に作られ、造形の美しさが特徴だ。1978〜80年の発掘調査で出土し、長岡市の馬高縄文館が所蔵する。

ストーンヘンジは約5千年前に造営が始まった遺跡で、案内施設は、日本の同時期に当たる縄文文化を紹介する特別展「環状列石ストーンヘンジと日本先史時代」を、来年8月末まで開催。世界文化遺産に登録された秋田県鹿角市の大湯環状列石などからの出土品も展示する。

紹介する特別展「環状列石ストーンヘンジと日本先史時代」を、来年8月末まで開催。世界文化遺産に登録された秋田県鹿角市の大湯環状列石などからの出土品も展示する。

長岡の火焰型土器は2016年10月から、英国の大英博物館で4点が常設展示されている。その際に調整した英国人の研究者が橋渡しをし、今回の特別展にも選ばれた。

26日の会見で磯田達伸市長は「縄文文化を代表する火焰型土器の造形は素晴らしく、世界の関心も高い。世界に魅力を発信できる」と期待した。

英国の世界文化遺産ストーンヘンジの施設で展示される岩野原遺跡の火焰型土器（長岡市提供）